

素材感むきだしの合板材で造作した棚類が、工房全体にガレージ風の無骨なビンテージ感を醸し出しています。ここで使われる機械は、専門業者も使う工業用機器の数々。そしてテラスにはコンプレッサー。すべてご主人が趣味のために買いそろえました。



所在地：安城市
 築年数：25年
 建て方：共同建
 構造：RC造
 階数：6階建(当該住戸は3階)
 住戸の延べ面積：83.43㎡
 リフォーム部分の面積：83.43㎡
 工事期間：1.5ヶ月
 工事完了年月：平成28年12月

マンションの1室をガレージ化した 男の趣味工房

ご夫婦のライフスタイルに合わせた空間デザインに、独自性のある機能をプラスしたリノベーション



テーマと概要

娘さん、息子さんと、二人のお子様が親元から独立していったことを機に、リフォームを考えはじめたというK様ご夫婦。当初は、使い込んだ既設品を新調できればいいという程度でしたが、これからはご夫婦自身の「私たちらしさ」を第一にしたいとの思いが膨らみ、間取り変更も含めた大胆なリノベーションに発展しました。ご夫婦のライフスタイルに合わせた空間デザインに、独自性のある機能を付加させたリノベーションです。

リフォームのポイント

- ご主人が趣味を楽しむ「ガラス工房」。
- 多機能な畳ルームをLDKの空間に設置。
- キッチンから住まいを広く見渡せるように。



↑ ご主人が約10年前に興味として始めた「ショットプラスト」は、ガラスの表面に微細な粒体を噴射して絵を描くガラス工芸。フロアに設けたニッチ棚に様々な作品が展示されます。普段の仕事の忙しさからちょっと離れるつもりが、工房に何時間も籠もって没頭することもしばしば。「職場の仲間や知人から作ってと言われると張り切っちゃって」とご主人は嬉しそう。

玄関から工房へ、フラットな状態で土間が続きます。趣味のガラス工芸の作業後の掃除をしやすいするため、そしてもう一つの趣味であるロードバイクの車体を出し入れしやすいための、一石二鳥のアイデアです。土間は、LDKへ続くフローリングの直下とも段差無しで繋がっています。→



↑ キッチンと工房、ご夫婦それぞれの居場所を運るものなく一気に繋ぐフロア。空気の抜けを良くすると同時に、お互いの気配を感じ合えるようにするための工夫です。



E

リビングには、使い方の自由度が高い畳ルームを設置。普段はのびのびと寝転んだりできる寛ぎ空間として。また、お子様の帰省時などには客用の寝室としても利用可能。そのため、天井からロール3本で開仕切り出来るようにしました。また畳の下は全面を6分割した収納スペース。簡単に外すことができ、収納力抜群です。



F

施行前



M

N

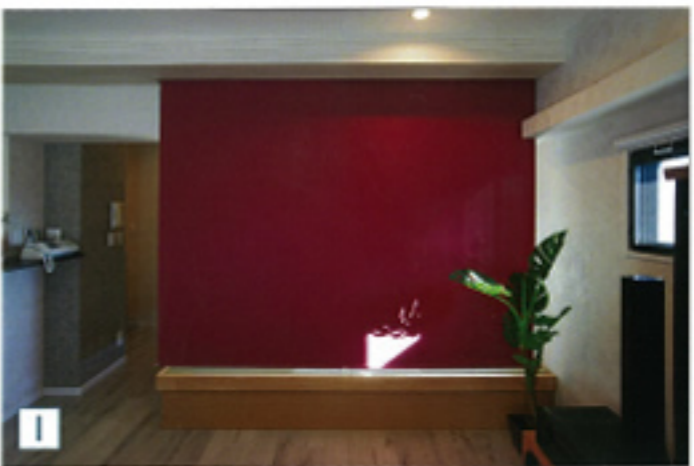
かかつてはキッチンが壁で仕切られ、小窓はあるものの、暗く寒く、圧迫感のある場所でした。また、お子様もいて4人で暮らしていても、それぞれが家の中で何をしてるか、奥様は分かりにくい状態でした。



G



H



I



J

K

ロールカーテンの配色の選考に何日もかけて、納得のいく色を選びました。奥様がタペストリーにもなるようにと選んだ「葡萄色」が、上品な和の風合いをぐっと高めます。全開、半閉じ、全閉じで部屋の表情が変わるところに面白味があります。

↑ オーディオにこだわりのあるご主人自身が、リビングの音響設計を買って出ました。美しい音楽、迫力の映画サウンドが、二人のコミュニケーションをより円滑にしてくれます。

「これからの主役はわたしたち夫婦。だから、今まで以上に明るくのびのびと暮らしたい」



L